

殺人は、時代への復讐だった。

罪と罰

アキ・カウリスマキ、驚異の処女作

出演=マルック・トイッカ/アイノ・セッポ/エスコ・ニッカリ/マッティ・ペロンパー
監督・脚本=アキ・カウリスマキ 原作=F・M・ドストエフスキー「罪と罰」より
1983年◎フィンランド◎1時間33分◎カラー 配給=ユーロスベース

Crime and Punishment

アキ風! 痛快バラエティ・ロード・ムービー!!

カラマリ・ユニオン

出演: マッティ・ペロンパー/ブンティ・ヴァルトネン/サッケ・ヤルヴェンパー/ビルッカ=ベッカ・ペテリウス/その他大勢
監督・脚本: アキ・カウリスマキ 1985年/フィンランド/1時間20分/モノクロ 配給: ユーロスベース

Calamari Union



フランク
男たちよ、
パラダイスへ進め!



罪と罰

Crime and Punishment

●製作:ミカ・カウリスマキ/監督:脚本:アキ・カウリスマキ/共同脚本:パウリ・ペンティ/原作:F.M.ドストエフスキー「罪と罰」より/撮影:ティモ・サルミネン/録音:ミカエル・シエヴェルス/編集:ヴェイッコ・アールトネン/美術:マッティ・ヤアラネン/音楽:ジョスタコーヴィッチ、シューベルト●出演:マルック・トイッカ/アイノ・セッポ/エスコ・ニッカリ/マッティ・ペロンパー ◆フィンランド・ユシ賞最優秀処女作品/最優秀脚本賞受賞 1983年/フィンランド/1時間33分/カラー/35ミリ

【解説】食肉解体工場で働く青年の名はラヒカイネン。いつも通りに仕事を終えた彼は、ひとりの男を尾行し、突然、射殺する。そして殺人を犯しながらも、まるでゲームを楽しむかのように、警察の捜査を翻弄させる。凍りついた彼の心は、果たして何を求めているのか…。不朽の名作、ドストエフスキーの『罪と罰』を原作に、舞台をペテルブルクから現代のヘルシンキに移し見事に映像化したカウリスマキ監督、驚異の処女作。

映画はこうにして始まる | 樋口泰人

歌が始まり終わるまでの数分間、そこで歌われる物語の間に、アキ・カウリスマキは更に90分の物語を差し挟む。歌の中の何に動かされたのか、あるいはその歌とはまるで関係ないのか、ひとりの男がひとりの男を唐突に殺す。そして偶然やってきた女がそれを目撃する。その偶然に、男は驚いた様子もなく、あたかもそうなるべくしてなったかのように、「俺が殺した、警察に電話しろ」と言う。

淡々と、とても言うべきか、映画の上映時間としてはごく当たり前の90分という時間の中で破綻なく進むこの物語には、しかし、偶然と不連続の裂け目が、そこかしこに顔を覗かせている。いや、この偶然と不連続の積み重ねによってこそ、この物語は連続しているのだ。たとえば男の声に振り返る女の、そ



の心の動きにあわせるかのようにスルスとカメラが女に近寄るその瞬間、あるいは男の部屋を捜索した刑事が、部屋の奥にある2重扉を開けてその向こうに階段が広がったその時、階下からなのか階上からなのか唐突にオペラの歌声が聞こえてきた瞬間、物語はまったく新しいものへと生まれ変わり、時間は更新される。その更新され続ける物語と時間の裂け目から、映画は次々に生まれるのだと、カウリスマキは確信してでもいるのだろう。未だ殺人を告白しない男に向かって、担当刑事は「いまはそんなことなどまるで考えられなくても、ある時突然、自首する気になる。そういうものだ」というようなことを語るのだった。

『白い花びら』の中で、女をだます男が乗ったスポーツカーが田園地帯を猛スピードで走ってくる男の登場シーンについて、「メロドラマが車に乗って走ってくるのだ」と、カウリスマキは語っていたように記憶している。おそらく映画はこのようにして始まるのだ。その意味で、『罪と罰』は、1983年という製作年代と、カウリスマキ26才の長編第1作という連続した時間の流れの中のひとつに地点に位置づけられるものであるとともに、21世紀の今、不意に我々の目の前に現れた生まれたての映画そのものでもある。

(ひぐちやすひと/映画評論家)

E a r l y K a u r i s m ä k i

アキ・カウリスマキ監督未公開2作品連続上映

カラマリ・ユニオン

Calamari Union

●監督・脚本:アキ・カウリスマキ/撮影:ティモ・サルミネン/録音:ヨウコ・ルッメ/編集:アキ・カウリスマキ、ライヤ・タルヴィオ/音楽:カサブランカ・フォックス+あれやこれや●出演:マッティ・ペロンパー/ブンティ・ヴァルトネン/サツケ・ヤルヴェンパー/ビルッカ=ベッカ・ペテリウス/その他大勢 ◆香港映画祭特別賞受賞 1985年/フィンランド/1時間20分/モノクロ/35ミリ

【解説】主人公はフランクの名をもつ15人の男たち。彼らが目指すのはたったひとつ、腐った現実の向こう側にある理想郷=〈エイラ〉。イカ墨同盟=〈カラマリ・ユニオン〉の男たちは、今日も腐臭漂う街を、魂をかけて走り抜けるのだ! デビュー作から一転し、笑いと皮肉たっぷりに描く、ロックでクレイジーなロード・ムービー。“レングラード・カウボーイズ”シリーズの原点ともいべき作品。

俺もお前もフランクだ! | 小野瀬雅生

フランク! フランク! フランク! フランクと云うと——ザッパ、シナトラ、ブルセル、マリノ(知らないか)、永井(こりゃ古い)等々。この映画を観てから、私の頭の中は更に沢山のフランクで一杯になっちゃいました是。

『カラマリ・ユニオン』はアキ・カウリスマキ監督の1985年の作品です。物語は至ってシンプル、16人の男達(うち15人の名前が全部フランク)が自分達の町を捨てて、希望溢れる町エイラへ旅をしようと云うもの。ただ冒頭からして唐突、その後ずっと様々なシーンが唐突にやって来ては唐突に去る、疾走するテンポ感がモノクロの画面と相俟って、実にクールでシニカルで摩訶不思議な映画です。死や不安や怒りと云ったものが一貫して描かれているのですが、決して難解でも沈鬱でもない。アキ



監督独特のニヒリズムに溢れたユーモアを、たっぷりと楽しむ事が出来ました。

『レングラード・カウボーイズ・ゴー・アメリカ』がきっかけでアキ監督作品のファンになった私としては、この映画の要所に散りばめられた音楽のヴァリエーションに心惹かれます。クラシックからジャズ、ロックンロール、フランク・オールスターズによるライヴシーンまで観どころ聞きどころ満載。中でも夜のヘルシンキに溶けて行くようなドアマン・フランクの弾き語りも珠玉です。

蛇足ですが2000年春、アキ監督が来日された折、私は幸運にもお会いしてお話までする機会に恵まれました。ワサビ・ブリークの巨漢!という印象のアキ監督でしたが、この映画に端役で出演している若き日の監督は、何ともスリムでハンサム!でも鋭い眼差しはお会いした時と全く同じです。

最後に。フランク! フランク! フランク! 映画の冒頭から、どのフランクも皆ヘヴィーに喫煙します。私も無性に煙草が吸いたくなっちゃいました是。

(おのせまさお/ミュージシャン「クレイジーケンバンド」ギター担当)

併映作品

パラダイスの夕暮れ

Shadow in Paradise



●監督・脚本:アキ・カウリスマキ/撮影:ティモ・サルミネン ●出演:マッティ・ペロンパー/カティ・オウティネン/サカリ・クオスマネン 1986年/フィンランド/1時間16分/カラー/35ミリ

【解説】人通りの少ないヘルシンキの朝を走るゴミ清掃車。岸を削り取る波。名もない安ホテルの男と女。都会で生きるゴミ収集の運転手とスーパーマーケットのレジ係のラブストーリーを淡々と映し出す。監督第3作目にして簡潔なカット、そして抑制されたセリフで詩的写実主義を確立し、世界中で高い評価を受けた作品。

ハムレット・ゴーズ・ビジネス

Hamlet Goes Business



●監督・脚本:アキ・カウリスマキ/撮影:ティモ・サルミネン ●出演:ビルッカ=ベッカ・ペネリウス/カティ・オウティネン/エリナ・サロ 1987年/フィンランド/1時間26分/モノクロ/35ミリ

【解説】父親の残した会社を乗っ取るとうとする伯父と息子の抗争を、カウリスマキ監督がシェイクスピア劇から翻案し、若い経営者の温かく勇気のある冒険として描いたブラック・コメディ。美しい古典的なモノクロームの映像にあぶりだされたのは、まさに“生きるか死ぬか”、そして、金にからむ剥き出しの人間の欲望であった。

7月13日(土)~19日(金)
お待たせ!大阪ロードショー!!

≡上映スケジュール(各回完全入替制)≡

	7/13(土)	7/14(日)	7/15(月)	7/16(火)
13:40	罪と罰	カラマリ・ユニオン	パラダイスの夕暮れ	ハムレット・ゴーズ・ビジネス
15:20	カラマリ・ユニオン	パラダイスの夕暮れ	ハムレット・ゴーズ・ビジネス	罪と罰
17:00	パラダイスの夕暮れ	ハムレット・ゴーズ・ビジネス	罪と罰	カラマリ・ユニオン
18:40	ハムレット・ゴーズ・ビジネス	罪と罰	カラマリ・ユニオン	パラダイスの夕暮れ

	7/17(水)	7/18(木)	7/19(金)
13:40	罪と罰	カラマリ・ユニオン	パラダイスの夕暮れ
15:20	カラマリ・ユニオン	パラダイスの夕暮れ	ハムレット・ゴーズ・ビジネス
17:00	パラダイスの夕暮れ	ハムレット・ゴーズ・ビジネス	罪と罰
18:40	ハムレット・ゴーズ・ビジネス	罪と罰	カラマリ・ユニオン

料金(1作品):一般1400円/学生・シニア1000円

扇町
ミュージアムスクエア

ホワイティ梅田泉の広場
M-10右上がる東へ5分
TEL.06-6361-0088 www.oms.gr.jp